

## ボート遊びに来た親子と出会った話

厳しい寒さが続いた今年の冬。その寒さもいくらかゆるんで、春の気配が感じられるようになったある日、相模川小倉橋下の河原に車で降りてみました。すると、ほのぼのとした光景を目にすることができました。3歳ぐらいの女の子と5歳ぐらいの男の子、それに父親の3人がボート遊びの準備をしているのです。ボートはワゴンタイプの車の屋根にくくりつけて運んできたようです。3人なら十分に乗れそうな大きさです。私が近づいた時には既に舟は河原の砂利の上に降ろしてありました。



お父さんは子供達を早く舟に乗せて楽しませようと、折りたたみ式と思われるオールの組み立てに一生懸命で、それが終わると安全確保のために全員の救命具等が揃っているかの確認作業を始めた様子。その間、子供達は河原の砂利の上に置かれたボートに乗ったり降りたりしながら遊んでいます。とても楽しそうです。

やがて、お父さんが「2人とも集まれ」と呼びかけると、子供達はすぐにお父さんのそばに近づいてきました。そして、お父さんが「救命具を着けなさい」とでも話したのか、子供達は言われたとおりに車の中にあるのか取り出して来て準備をしました。その後、お父さんは子供たちが銘々身に着けた救命具の安全確認のための最終チェックをしている様子。私の耳にお父さんの声で「これでよし」との声がかすかに聞こえ、ようやく準備万端整ったようです。そこでお父さんは「そら行くぞ」と大きな船を担ぎ、子供達はオール等の小物を持ってお父さんの後に続きました。女の子のよちよち歩きが何とも可愛らしくて、思わず頬がゆるみました。

川岸に近づくとお父さんは担いで行った大きなボートを川面に浮かべ、親子そろって乗り込み、早速お父さんより先に男の子がオールを握り手馴れた様子で漕ぎ始め、お父さんも負けじと漕ぎ始めました。私が遠くの方からボートに向かって「お兄ちゃん、オールさばきが上手だね」と声をかけると、お父さんが素敵な笑顔で、「今日が初めてなんだ」とうれしそうに返事をしてくれました。3人はしばらく楽しそうに舟遊びに興じていました。まだ川の水は冷たいはずですが、仲の良い家族の心のつながりが周囲の空気をほのぼのと温めていました。太陽がそろそろ西に傾く時間となり、私は舟遊びの親子に手を振りながら、後ろ髪ひかれる思いで家路につきました。



子供は親の背中を見て育つと言いますが、親子でオールを漕ぐ姿につくづくその通りだなと思いました。女の子にとっても、春まだ浅い相模川で父親とお兄さんと一緒に舟遊びをした思い出は、いつまでも心に残ることでしょう。家族の強い絆を感じた楽しい一日でした。

心残りではありましたがお父さんの名前は聞かず、自分の名刺だけ差し上げてきました。名刺に記載してある弊社のホームページを見て下さることを願いつつ、御礼とさせていただきます。有難うございました。